

B—5 不織布の外衣への適用性

都立立川短大 酒井 豊子
○山田 裕子

1. 不織布の用途は最近拡大の一途をたどっているが、布地・服地の分野では、芯地を除くと未だ一般的には用いられていない。製造工程等から考えると大量生産が行えれば、織物よりはるかに安価にできるということから、衣服素材としての特性があるならば、さらに広く使用されて然るべきである。そこで、不織布そのものの特性を調べると共に、対応する織物と比較しながら、不織布の衣服への適応性について検討した。

2. 厚さ、こわさの異なる数種の不織布を用い、織物と比較しながら次により検討した。

(1)実物 1/2 大のセミタイト・ギャザー・フレヤースカートを作成し、シルエットとその変化を調べた。

(2)着用時に求められる各種の要因(ドレープ性、剛軟性、伸長特性、摩耗強度、弾性回復率等)について検討した。

(3)単純なシルエットのドレスを作成し、着用し(含洗濯3回)変化をみた。

3. (1)では織物と遜色なく、形の保持面では好ましい結果も得られた。(2)では、不織布は荷重・伸長曲線が織物とは著しく異なり、一般に伸びやすく回復しやすい。剛軟度には差異が見られない。又、防しわ性がよいので wash & wear の衣服に適する。(3)では、毛羽だち、ピリング、摩耗強度が弱い点に問題はあるが、型くずれ、しわは少なく、1シーズン位の着用には耐えられること等がわかった。